

B-104 被服害虫の生態と防除に関する研究  
コイガ幼虫の成長について

奈良女子大 辻井 康子

1. コイガ *Tineola Bisseliella* は、イガ *Tinea Pelionella* と共によく知られた重要な羊毛害虫である。被服管理をする上においてもまた防虫性検定用試験昆虫として用いるためにも、その生態の解明は重要な問題である。今回はコイガについてその成長の様相を検討し、令期の判定の可能性について考察した。

2. コイガの幼虫を  $30 \pm 1^{\circ}\text{C}$ 、関係湿度  $75 \pm 5\%$  の環境条件で純毛フランネルと乾燥粉末酵母を飼料として、1頭飼育を行ない、脱皮回数、発育日数、脱皮からの頭幅測定を行なった。

3. コイガは幼虫期に5~11回脱皮する。この中6, 7, 8回脱皮するものが全体の84%を占めた。

各令型における最大頭幅は令の多いもの程大きいが、成長比は減少する。故に集合飼育では各令型の令期が重複してくるため令期の判定は困難である。

発育日数は、脱皮回数の多いもの程長くなるが、各令型の令期が大体揃っている、3令期までは発育日数による令期の推定が可能である。ふ化後15~20日までは各令型とも3令期にあたりこの間の幼虫は生理的に均一と考えられる。

頭幅測定値を成長式に適用した結果、6, 8令型幼虫は Gaines & Campbell, 7令型幼虫は Dyar の式に適合した。